

認知症ユニット3年間の 歩みについて

一人ひとりをより深く知るために…

特別養護老人ホーム 芦別慈恵園
施設福祉課 介護係
副主任Cw 畠山幸子
チーフ主任Cw 高橋真由美

社会福祉法人 芦別慈恵園 基本理念

「和顔愛語」…わがんあいご

人にやさしい笑顔で

心は豊かに

言葉は和やかに

はじめに

ひまわりユニット…14名の利用者
(認知症)

全利用者(106名)を流れ作業で
介護事故が多い

ユニットとして区切る(利用者・スタッフ)

「その人らしく過ごす時間を大切に」

環境整備

- ・大きな空間
リビング・ダイニング
- ・パーテーションを設置
Cwから考えると死角がある=危ない
利用者から死角=見られていない
⇒落ち着いてソファを活用している



「回想法」 「バリテーション」

- ・一人ひとりのことをより深く知る為に
「回想法」
 - ・お話しから
 - ・料理等から
- 「バリテーション」
 - ・担当を決めてマンツーマンで
 - ①事前の接見
 - ②実施
 - ③評価



レクリエーション

- ・個別レクリエーションの実施
 - ・漬物を漬ける
 - ・文房具を買いに行く
 - ・入院中の娘に面会
 - ・歌謡ショーを見に行く

ご家族やボランティアの協力を得て実施



食 事

☆ゆっくり美味しく食べて頂く工夫

- ・本人専用の箸や茶碗、食器を用意
- ・朝食は起きた順に食事の準備
- ・主食（米飯・粥）
- ・水分の工夫
- ・複式献立（調理員）
- ・ユニットクッキング（調理員）
- ・硬さに合わせてひと工夫

入 浴

- ・利用者のタイミングで入浴
 - ⇒他のユニットとぶつかり
 - ゆっくりと入浴することが難しい

↓

- ・個別浴槽の設置
 - ⇒座位がとれる方、14名中8名
 - （夕方浴・夜間浴も実施）



ターミナルケア


- ・慣れた環境の中、ご家族とともに看取りたい

↓

その人らしい空間作り
ご家族への配慮
他職種との協力

3年間取り組んできて…

- ・開始当初は個人を見ることができなかった
⇒「大勢の中のひとり」
- ・その人をもっと知りたい！
⇒生活、既往、体温、血圧、尿間、個別対応・危険対応表の作成
⇒体調管理、維持に努めることで
事故が激減



3年間取り組んできて…

- ・気がつけば…身体介護に追われていた
⇒何を行っても上手くいかない
あせり・いらだち
- ・Cwに余裕がない
- ・気持ちを受け止めることが難しい



3年間取り組んできて…

スタッフが落ち着けない環境に
していたのでは？

開始当初の気持ちを
継続する難しさ

3年間取り組んできて…

- ・利用者の把握をしなくてはならない、知ろうという気持ちになった
- ・一緒に食事をしたり共に過ごしたいと思うようになった
- ・家族とともに介護をしようと思った

↓

必要な存在になれる様に…

今後の課題

- ・ 関わる人の感情や雰囲気敏感
- ・ 一人ひとりの生活を大切に
- ・ ご家族の思い
⇒ テクニックだけでなく、
心のこもった温かい介護とは
- ・ スタッフが変わっても継続できる介護